



テレメトリの設定

- [アプリケーションテレメトリについて \(1 ページ\)](#)
- [テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定 \(1 ページ\)](#)
- [デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準 \(2 ページ\)](#)
- [アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング \(6 ページ\)](#)
- [新しいクラスタ仮想 IP アドレスを使用するためのテレメトリ設定の更新 \(7 ページ\)](#)
- [テレメトリを使用したデバイス設定の更新 \(9 ページ\)](#)

アプリケーションテレメトリについて

アプリケーションテレメトリを使用すると、デバイスの正常性をモニターおよび評価するためのグローバルネットワーク設定を構成できます。

テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定

Cisco DNA Center では、デバイスを特定のサイトに割り当てる際のグローバルネットワーク設定を構成できます。テレメトリを使用すると、ネットワークデバイスがポーリングされ、SNMP サーバー、syslog サーバー、NetFlow コレクタ、または有線クライアントの設定に従ってテレメトリデータが収集されます。

始める前に

サイトを作成し、サイトにデバイスを割り当てます。『[ネットワーク階層のサイトの作成](#)』を参照してください。

-
- ステップ 1** [Design] > [Network Settings] > [Telemetry] の順に選択します。Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します
- ステップ 2** [NMP Traps] 領域が表示されていない場合は展開し、次のいずれかを実行します。
- [Cisco DNA Center as SNMP trap server] チェックボックスをオンにします。
 - [Add an external SNMP trap server] チェックボックスをオンにし、外部 SNMP トラップサーバーの IP アドレスを入力します。
- 選択したサーバーによってネットワークデバイスから SNMP トラップとメッセージが収集されます。
- ステップ 3** [Syslogs] 領域が表示されていない場合は展開し、次のいずれかを実行します。
- [Use Cisco DNA Center as syslog server] チェックボックスをオンにします。
 - [Add an external syslog server] チェックボックスをオンにし、外部 syslog サーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 4** [NetFlow] 領域が表示されていない場合は展開し、次のいずれかを実行します。
- [Use Cisco DNA Center as NetFlow collector server] チェックボックスをオンにします。
デバイスインターフェイスの NetFlow の構成は、デバイスでアプリケーションテレメトリを有効にした場合にのみ完了します。NetFlow の宛先サーバーをデバイスに設定するには、サイトレベルで NetFlow コレクタを選択します。
 - [Add an external NetFlow collector server] チェックボックスをオンにし、NetFlow コレクタサーバーの IP アドレスとポート番号を入力します。
選択したサーバーがネットワークデバイスからの NetFlow エクスポートの宛先サーバーになります。NetFlow コレクタが選択されていない場合、アプリケーションテレメトリは有効になりません。
- ステップ 5** [Wired Client Data Collection] 領域を展開し、[Monitor wired clients] チェックボックスをオンにします。
この選択により、サイトのアクセスデバイスで IP デバイストラッキング (IPDT) がオンになります。
デフォルトでは、サイトの IPDT は無効になっています。
- ステップ 6** [Save] をクリックします。
-

デバイスでのアプリケーションテレメトリ有効化の基準

Cisco DNA Center では、新しい自動選択アルゴリズムに基づいてインターフェイスと WLAN を選択し、該当するすべてのインターフェイスと WLAN でアプリケーションテレメトリを自動的に有効にします。

アプリケーションテレメトリは、Cisco DNA Center を介してプロビジョニングされた WLAN にプッシュされます。



- (注)
- 従来のタギングベースのアルゴリズムがサポートされ、インターフェイスまたは WLAN の新しい自動選択アルゴリズムよりも優先されます。
 - 自動選択アルゴリズムからタギングベースのアルゴリズムに切り替える場合は、タグ付き SSID をデバイスに対してプロビジョニングする前にテレメトリを無効にする必要があります。

次の表に、サポートされているすべてのプラットフォームについて、従来のタギングベースのアルゴリズム（キーワード **lan** を使用）と新しい自動選択アルゴリズムに基づくインターフェイスと WLAN の選択基準を示します。

プラットフォーム	従来のタギングベースのアルゴリズム	自動選択アルゴリズム
Router	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスの説明に lan キーワードが含まれている。12 • インターフェイスが物理インターフェイスである。 • インターフェイスに管理 IP アドレス以外の IP アドレスがある。 	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスに管理 IP アドレス以外の IP アドレスがある。 • インターフェイスが次のいずれでもない。 <ul style="list-style-type: none"> • WAN <ul style="list-style-type: none"> (注) インターフェイスにパブリック IP アドレスがあり、パブリック IP アドレスがインターフェイスを経由するルートルールがある場合、そのインターフェイスは WAN 側インターフェイスとして扱われます。 このコンテキストでは、パブリック IP アドレスはプライベート範囲にない（たとえば、192.168.x.x、172.16.y.y、10.z.z.z になり）か、システムの IP プールにない IP アドレスです。 ルートルールは動的に学習できます。このコンテキストでは、show ip route コマンドでこのインターフェイスを通過するパブリック IP アドレスへのルートは表示されません。 • ループバック • 管理インターフェイス： <ul style="list-style-type: none"> IGABITETHERNET0、 GIGABITETHERNET0/0、MGMT0、 FASTETHERNET0、 FASTETHERNET1

プラットフォーム	従来のタギングベースのアルゴリズム	自動選択アルゴリズム
スイッチ	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスの説明に lan キーワードが含まれている。^{1, 2} • スイッチポートがアクセスポートとして設定されている。 • スイッチポートに switch-mode access コマンドが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスが物理インターフェイスである。 • アクセスポートにネイバーがない。 • インターフェイスが次のいずれでもない。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理インターフェイス： FASTETHERNET0、 FASTETHERNET1、 GIGABITETHERNET0/0、MGMT0 • LOOPBACK0、Bluetooth、App Gigabit、WPAN、Cellular、Async • VSL インターフェイス
Cisco AireOS コントローラ	<ul style="list-style-type: none"> • WLAN プロファイル名が lan キーワードでタグ付けされている。^{1, 2} 	<ul style="list-style-type: none"> • ゲスト SSID ではない。 <ul style="list-style-type: none"> • WLAN がゲストタイプとして設定されていない。 • SSID の名前に guest キーワードが含まれていない。 • SSID がローカルモードで設定されている。
Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラと最適化アプリケーションパフォーマンスモニタリング (APM) プロファイルおよび IOS リリース 16.12.1 以降	<ul style="list-style-type: none"> • WLAN プロファイル名が lan キーワードでタグ付けされている。^{1, 2} • WLAN がローカルモードで設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> • ゲスト SSID ではない。 <ul style="list-style-type: none"> • WLAN がゲストタイプとして設定されていない。 • SSID の名前に guest キーワードが含まれていない。 • SSID が混在している場合、つまりローカルモード、フレックスモード、およびファブリックモードの場合は、Cisco Application Visibility and Control (AVC) の基本レコードが設定されます。すべての SSID がローカルモードの場合、最適化 APM レコードが設定されます。
<p>(注) テレメトリ設定を更新する場合は、テレメトリを無効にしてから、設定の変更後にテレメトリを有効にする必要があります。</p>		

プラットフォーム	従来のタギングベースのアルゴリズム	自動選択アルゴリズム
Cisco DNA トラフィックテレメトリアプライアンスと最適化 APM プロファイルおよび IOS リリース 17.3 以降	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスの説明に lan キーワードが含まれている。^{1, 2} • インターフェイスが物理インターフェイスである。 	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスが物理インターフェイスである。 • インターフェイスが管理インターフェイス (GIGABITETHERNET0、GIGABITETHERNET0/0、MGMT0、FASTETHERNET0、および FASTETHERNET1) ではない。

¹ **lan** キーワードは、大文字と小文字の区別はなく、スペース、ハイフン、または下線で区切ることができます。

² ネットワークデバイスを再同期して、**lan** インターフェイスの説明を読み取ります。

アプリケーションテレメトリ設定のプロビジョニング

テレメトリを使用した Syslog、SNMP トラップ、NetFlow コレクタサーバー、および有線クライアントデータ収集の設定 (1 ページ) の説明に従って、グローバルテレメトリ設定を構成します。

ステップ 1 Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します [Provision] > [Inventory] の順に選択します。

インベントリのページには、ディスカバリ プロセス中に収集されたデバイス情報が表示されます。特定のサイトで使用可能なデバイスを表示するには、左側のペインで [Global] サイトを展開し、サイト、建物、またはフロアを選択します。

ステップ 2 プロビジョニングするデバイスを選択します。

ステップ 3 [Actions] ドロップダウンリストから、[Telemetry] を選択し、次のいずれかを実行します。

(注) アプリケーションテレメトリのオプションは、Cisco DNA Center からのアプリケーションテレメトリの有効化がデバイスでサポートされている場合にのみ有効になります。

a) [Enable Application Telemetry] : 選択したデバイスでアプリケーションテレメトリを設定します。

b) [Disable Application Telemetry] : 選択したデバイスからアプリケーションテレメトリ設定を削除します。

ステップ 4 [Apply] をクリックします。

[Application Telemetry] 列には、テレメトリの設定ステータスが表示されます。デフォルトの列設定で

[Application Telemetry] 列が表示されない場合は、列見出しの右端にある [More] アイコン (⋮) をクリックし、[Application Telemetry] チェックボックスをオンにします。

新しいクラスタ仮想 IP アドレスを使用するためのテレメトリ設定の更新

Cisco DNA Center アプリケーションテレメトリを使用してデバイスデータをモニターし、Cisco DNA Center クラスタ仮想 IP アドレス (VIP) を変更する必要がある場合は、次の手順を実行して VIP を変更し、ノードテレメトリデータが新しい VIP に送信されることを確認します。

始める前に

- 使用している Cisco DNA Center のバージョンを確認します。それには、Cisco DNA Center GUI にログインし、[About] オプションを選択して Cisco DNA Center のバージョン番号を表示します。
- SSH クライアントソフトウェアを入手します。
- Cisco DNA Center プライマリノード上のエンタープライズ ネットワーク側の 10 GB インターフェイスに設定された VIP アドレスを特定します。ポート 2222 上のこのアドレスを使用してアプライアンスにログインします。このポートを特定するには、『[Cisco DNA Center Installation Guide](#)』の「Front and Rear Panels」の項にある背面パネルの図を参照してください。
- プライマリノードに設定されている Linux ユーザー名 (**maglev**) とパスワードを取得します。
- 割り当てるクラスタ VIP を特定します。クラスタ VIP は、『[Cisco DNA Center Installation Guide](#)』の「Required IP Addresses and Subnets」セクションで説明されている要件に準拠している必要があります。

ステップ 1 Cisco DNA Center GUI にアクセスし、次の手順に従ってすべてのサイトでアプリケーションテレメトリを無効にします。

- a) Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します **[Provision] > [Inventory] > [Provision]** の順に選択します。

インベントリのページには、ディスクバリ プロセス中に収集されたデバイス情報が表示されます。特定のサイトで使用可能なデバイスを表示するには、左側のペインで [Global] サイトを展開し、サイト、建物、またはフロアを選択します。

- b) 現在モニターしているすべてのサイトとデバイスを選択します。
c) [Actions] ドロップダウンリストから、**[Telemetry] > [Disable Application Telemetry]** の順に選択します。
d) サイトとデバイスでテレメトリが無効になったことが示されるまで待ちます。

ステップ 2 アプライアンス構成ウィザードを使用して、次のようにクラスタ VIP を変更します。

- a) SSH クライアントを使用して、Cisco DNA Center プライマリノード上のエンタープライズ ネットワーク側の 10 GB インターフェイスに設定された VIP アドレスにログインします。ポート 2222 にログインしていることを確認します。
- b) プロンプトが表示されたら、Linux のユーザー名とパスワードを入力します。
- c) 次のコマンドを入力すると、プライマリノード上で構成ウィザードにアクセスできます。

```
$ sudo maglev-config update
```

Linux パスワードを入力するようプロンプトが表示されたら、再度入力します。

- d) クラスタ仮想 IP の入力を求める画面が表示されるまで [Next] を繰り返しクリックします。新しいクラスタ VIP を入力し、以降のすべての画面で [Next] をクリックしてウィザードを終了します。

設定したインターフェイスごとに 1 つの仮想 IP を設定する必要があります。 `sudo maglev-config update` コマンドを入力して、設定したインターフェイスごとに 1 つの VIP を入力するよう指示されるようにウィザードを設定することを推奨します。

最後の画面に到達すると、変更を適用する準備ができたことを示すメッセージが表示されます。

- e) [proceed] をクリックして、クラスタ VIP の変更を適用します。

設定プロセスの最後に成功メッセージが表示され、SSH プロンプトに復帰します。

ステップ 3 SSH プロンプトで次の一連のコマンドを入力して、必要な Cisco DNA Center サービスを再起動します。

```
magctl service restart -d collector-netflow
magctl service restart -d collector-syslog
magctl service restart -d collector-trap
magctl service restart -d wirelesscollector
```

ステップ 4 すべてのサービスが再起動するまで待ちます。次のコマンドを入力して、再起動の進行状況をモニターリングできます。必要に応じて、使用している Cisco DNA Center のバージョンが属するリリーストレインに適したサービス名に置き換えてください。

```
magctl appstack status | grep -i -e collector-netflow -e collector-syslog -e collector-trap -e wirelesscollector
```

必要なすべてのサービスが実行されている場合は、次のようなコマンド出力が表示され、正常に再起動した各サービスの実行ステータスが表示されます。

```
assurance-backend wirelesscollector-123-bc99s 1/1 Running 0 25d <IP> <IP>
ndp collector-netflow-456-lxv1x 1/1 Running 0 1d <IP> <IP>
ndp collector-syslog-789-r0rr1 1/1 Running 0 25d <IP> <IP>
ndp collector-trap-101112-3ppl1m 1/1 Running 0 25d <IP> <IP>
```

ステップ 5 Cisco DNA Center GUI にアクセスし、次の手順に従ってすべてのノードでアプリケーションテレメトリを有効にします。

- a) Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します **[Provision]** > **[Inventory]** > **[Provision]** の順に選択します。
- b) モニターするすべてのサイトとデバイスを選択します。
- c) [Actions] ドロップダウンリストから、**[Telemetry]** > **[Enable Application Telemetry]** の順に選択します。
- d) サイトとデバイスでテレメトリが有効になったことが示されるまで待ちます。

テレメトリを使用したデバイス設定の更新

デバイスの可制御性が有効か無効かに関係なく、デバイスに構成の変更をプッシュできます。

ステップ 1 Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します[Provision] > [Inventory] の順に選択します。

インベントリのページには、ディスカバリ プロセス中に収集されたデバイス情報が表示されます。特定のサイトで使用可能なデバイスを表示するには、左側のペインで [Global] サイトを展開し、サイト、ビルディング、またはフロアを選択します。

ステップ 2 構成の変更を反映するデバイスを選択します。

ステップ 3 [Actions] ドロップダウンリストから、[Telemetry] > [Update Telemetry Settings] の順に選択します。

ステップ 4 [Update Telemetry Settings] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- (オプション) 構成の変更をデバイスにプッシュするには、[Force Configuration Push] チェックボックスをオンにします。構成に変更がない場合は、既存の構成がデバイスに再度プッシュされます。
- [Next] をクリックします。
- [Now] オプションボタンをクリックするか、[Later] オプションボタンをクリックしてテレメトリ設定を更新する日付と時刻を指定します。

ステップ 5 [Apply] をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。